

令和元年度 国立中央青少年交流の家 教育事業

アセアン加盟国中学生招聘交流事業

期日：令和元年 11 月 19 日（火）～ 11 月 24 日（日）5 泊 6 日

○目的

- (1) グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年の育成を図る。
- (2) 日本やアセアン諸国の発展に寄与する人材を育成する。

○参加者

アセアン交流生徒 30 名 御殿場市・裾野市交流生徒 14 名 ホームステイ家族 20 家族
御殿場市立御殿場南中学校生徒 413 名 御殿場市立西中学校生徒 264 名



○事業の内容

(1)開会式



(2)ウェルカムパーティー



(3)朝のつどい



(4)御殿場市長訪問



(5)自然体験 スキー



(6)富士山講話



(7)野外炊事



(8)日本文化体験 茶道



(9)学校訪問 西中学校



学校訪問 御殿場南中学校



(10)日本文化体験 餅つき



(11)日本人中学生との交流



(12)ホームステイ



(13)プレゼンテーション①



プレゼンテーション②



(14)フェアウェルパーティー①



フェアウェルパーティー②



(15)アセアン生徒見送り



【日本人交流生徒の感想より】

- ・各国のプレゼンテーションを聞き取れなくて、英語への意欲が増しました。
- ・各国の事情も分かり、たくさん話すことができました。来年は受験ですが、ぜひ参加したいです。
- ・各国のゴミ問題のプレゼンテーションを聞き、解決に向けて小さなことでもやっていこうと思いました。
- ・言葉が通じない人と楽しくできて良かったです。また参加したいです。
- ・言葉が通じなくてもコミュニケーションをとる方法があることを知りました。
- ・貴重な体験ができました。この経験を将来に活かしていきたいと思いました。
- ・日本人の英語力が低いことを実感した。

【成果と課題】

- 御殿場市教育委員会と連携することにより、事前に訪問先の中学校と打ち合わせを行い、学校訪問のプログラムをスムーズに実施することができた。
- アセアン生徒の多くが初めての雪体験であったが、インストラクターと安全管理を徹底することでより効果的なスキー体験を実施することができた。
- 日本人交流生徒は限られた準備期間での資料作成、練習であったが、英語でのプレゼンテーションに挑戦したことは大変有意義であった。
- プレゼンテーションにおいて、各国の発表後に発展的に様々な意見や質問が出てグローバルな視点で「ゴミ問題」について考える機会となった。
- 日本人参加者がアセアン生徒との交流を通して異文化への興味関心が高まり、また英語でのコミュニケーションの必要性を認識することができた。
- アセアン交流生徒と日本人中学生が交流するプログラムをさらに充実させていくことで、アセアン交流事業がより効果的になると考えられる。